

# 2025 新春トップインタビュー ゴルフ界の展望を聞く

## ゴルフをより身近な存在に。100周年契機にゴルフ振興策をパワーアップ



公益財団法人・日本ゴルフ協会 会長  
池谷 正成 氏

——2024年の振り返りと新春に向けての抱負を伺います。山中博史専務執行役、広報担当者にも同席いただきます。

池谷 24年は公益財団法人・日本ゴルフ協会（JGA）の創設100周年を迎えた1年でした。23年は北陸の方で日本シニアオープン、日本女子オープンを開催しましたが、24年1月1日に令和6年能登半島地震が発生、日本は災害の多い国ではあるというものの能登半島では9月に豪雨災害もあり、被害が集中して大変だったと思います。

24年は3つのナショナルオープンを関東で行いました。夏の酷暑とその後の雨という気象条件も重なって、3オープンとも予想を大きく超える深いラフになっていました。

日本シニアオープン（千葉C川間C）は接戦で韓国の崔虎星（チェ・ホソン）プロが優勝。変則的スイングでもショットはブレません。ゴルフを始めたのが25歳、しかも事故による大けがで右手親指の半分を失うというハンデを背負うものの自分で工夫されたそうです。

日本女子オープン（大根根C）は竹田麗央（りお）プロが優勝。竹田プロは今年8勝し初の年間女王になりました。

日本オープン（東京GC）は終盤に見応えがありました。17番で木下稜介プロがバンカーから直接カップインしトップタイに浮上し、場内の雰囲気が一変。並ばれた今平周吾プロは難しい最終18番でグリーンの手前に乗せて2段グリーンのロングパットを見事沈め優勝しました。4

日間のギャラリー数は約1万7千人でしたが、本音を言うともっと多くの方に見てもらいたかったですね。

——歴代チャンピオンが集まるチャンピオンズ・ディナーは開催週火曜日に開かれました。

池谷 とても盛り上り素晴らしかった。女子オープンは昨年引き続き台湾の涂阿玉さん、中国からフォン・シャンシャンさんも来ていただいた。涂さんは相変わらずスリムですが、フォンさんも引退されてお子様が生まれ昔の体形に戻られたそうで見聞違うほどでした。

日本オープンは今年も青木功さんや中嶋常幸さんが参加し、場を盛り上げていただきましたが、何と言っても昔東京ゴルフ倶楽部に所属していた陳清波（93歳）さん、佐藤精一（92歳）さん、杉本英世（86歳）さんの存在感が抜群で、とてもお元気でした。JGA100周年を祝う記念の年であったのと、前の週にアジアパシフィックアマが静岡県の太平洋C御殿場コース

であり、海外のゴルフ関係者も多数参加されました。チャンピオンズ・ディナーには、R & Aのチェアマンご夫妻とキャプテングご夫妻にも参加いただきました。期間中には台湾、シンガポールなど各国のゴルフ協会の方々もご来場になり、お祝いをいただきました。

——24年は歴史のある倶楽部での開催が多かったですね。

**池谷** 日本アマは廣野GC（兵庫県）で最終日は悪天候により競技短縮でしたが、松山菜生（まお）選手と山下勝将選手（山下美夢有プロの弟）による雨の中でのプレーオフとなり、松山選手が15歳344日の最年少優勝を果たしました。

日本女子アマは我孫子GC（千葉県）で17歳の鳥居さくら選手（滝川第二高）が14アンダーで逆転による初優勝でした。

パリ五輪は松山英樹プロが銅メダルを獲得（メダル報奨金600万円を若手選手育成のためにJGAに寄付）し、山下美夢有プロも最後までメダル争いを

して、結果4位でしたが大健闘してくれました。池が絡みドラマが起きやすいコースでした（山中）。

——女子選手は海外志向が強くて、しかもメジャーチャンピオンも複数誕生しました。

**池谷** 笹生優花プロが2度目の全米女子オープン、古江彩佳プロがエビアン選手権でメジャー初優勝を飾りました。日本だけでなく、アジア全体でもレベルが上がってきています。

御殿場でのアジアパシフィックアマは、中国のウエニー・デイン選手が優勝、中野麟太郎選手は2打届かず3位でした。優勝者に翌年のマスターズと全英オープンの出場資格が与えられる重要な競技で、日本で開かれるのは松山英樹プロが霞ヶ関CCで優勝した2010年大会以来でした。

（山中）10月にベトナムで行われたノムラカップアジア太平洋アマチュアはベトナムチームが初優勝、良いコーチを付けて急激に強くなってきています。

**池谷** ベトナムをはじめアジア各国に良いコースが沢山できていますから。今後も強い選手が出てくるでしょうね。

ところで令和6年度の文化功労者の一人に青木功プロが選ばれました。男子プロの皆さんにとつても非常に元気づけられたニュースだったと思います。男子のショットは迫力があり、現地で観戦するとやはり魅力がありますので是非盛り上がってほしいですね。

オープン大会での観戦でも最近スマホで動画を撮ったりできますし。スタンプラリー「ごる印めぐり」、健康イベント等も会場で開催し、賑わいました。JGAはゴルフ界全体を考えると、競技だけじゃなく、多くの人にもっとゴルフに親しんでもらおうと、ここ何年かゴルフ振興活動を地道に進めています。

——その他100周年事業ゴルフ振興計画を伺います。

**池谷** 25年は「日本女子シニアオープンゴルフ選手権 太陽生命元氣・長生きカップ」を5

月に東急セブンハンドレッドC（千葉県）で初開催。出場資格は45歳以上の選手です。また24年に第1回を武蔵CC笹井Cで開いた60歳以上の日本女子グラインドシニアは、来年は千刈CC（兵庫県）で行う予定です。

ジュニアは日本ジュニアゴルフ選手権を高ゴ連と共催することを発表しました。酷暑の中、健康管理にも留意する必要があります。夏のジュニア大会を一本化し8月第三週に開く予定です。夏の競技は暑さ対策をしっかりと、途中で休憩を挟むなど考えたいですね。

25年度のオープン競技は男子の日本オープン日光CC（栃木県）、女子をチェリーヒルズGC（兵庫県）、シニアを相模原GC（神奈川県）で開催し、女子シニアオープンについては前述の通りです。お陰様で、オープンの開催コースは女子を筆頭にゴルフ場からの開催要望も多くなって先々まで決まっています。

また日本のゴルフの史実を明

確に振り返る記事と記録をまとめたサイト「GOLFPEDIA（ゴルフペディア）」をJGA創立日の10月17日に開設しました。

（広報・長堀氏）ウイキペディアに「ゴルフ」の解説もありますが、JGAとして文化的な面でも楽しみを提供できればと、学芸員とライターが資料を丹念に調べていて今後の100年に向けて記録を残していきたいと思えます。デジタルなので随時更新していきます。

**池谷** JGAは創立100年ですが、ゴルフはもつと古い歴史があります。JGAがゴルフファームにもつと身近に感じてもらう意味でもSNSやデジタルを活用して、ここ何年か進めていまいすが中々難しいのが現状です。

日本はR&A傘下（米とメキシコ除く）で有数のゴルフ人口とゴルフ場数を抱え、海外からも注目度が高いです。ただ何せ資金面が乏しいので、公益法人の特性を生かし、寄付者のメリットもある寄附金を多く募るようにしたいと考えています。

（山中）100周年の記念グッズはキティちゃんなどコラボのキャラクターグッズも発売して好評でした。

**池谷** 台湾やシンガポールからも競技参加要請やコース紹介の依頼もあり、また韓国など海外からのゴルフアームも増えていきます。日本はプレー代が安く、リモコンカートなど日本独自に発展しているゴルフスタイルも珍しがられるので、海外にも広めて、日本が置いて行かれないようにしたいですね。

——日米で政府のトップが交代しましたが、ゴルフ業界として解決したい課題はありますか？  
**池谷** やはり公務員倫理規程の改定ですね。ただ良い感じになると、公務員による不祥事が発生し、そういう雰囲気ではなくなるのがいつも残念です。衆議院選では、与党が大敗し、年収103万円の壁問題など政局も不透明です。103万円の壁や厚生年金加入の106万円の壁など自治体やキャディなど従業員に影響するかも知れません。

ゴルフ場利用税の完全撤廃は地方財政が厳しいので益々難しいと感じています。

（山中）でもいくつかの自治体では、ゴルフアームの数を増やさないと税収も上がらないので、ゴルフ場利用税を使って色んなゴルフ振興策を始めるようになったのは良い傾向だと思っております。

——団塊世代高齢化の2025年問題もありますし、自治体との協働は推し進めたいですね。

**池谷** オープン大会では地元の小学生を招待し練習ラウンドの水曜日に選手と交流したり、ゴルフ体験会や市民開放など地域と一体となったゴルフ振興のイベントも行っています。JGAの「ゴルフ応援サイト」(<https://www.golfer-support.com/>)では様々なゴルフ振興施策を紹介しています。是非関係団体等には情報提供にご協力いただき、活用していただきたい。

（山中）R&Aから私達のゴルフ振興策の柱である「ゴルフと健康」「女性とゴルフ」に対し

て助成金をいただいています。日本だけではなくて世界的な問題なので。ジュニア、新規ゴルフアームに長く続けていただける施策も必要です。

25年は今まで以上にバージョニアップをして、色んな大会、企画を作って、皆さんに参加してもらえるところを今、各都県で話しあっているところです。

ゴルフ人口はコース以外でプレーする方も含めて人口の10%の1000万人は目指したいですね。これだけ生涯スポーツとして国民に浸透していますので。

**池谷** 「ゴルフ振興」はゴルフ界の共通テーマです。JGAだけでは限度がありますので、地区連盟の協力を得て、練習場連盟やパブリック協会など他の団体とも協働し進めています。

ゴルフもそうですが、JGA自体ももつとゴルフをする人にとつて身近な存在になれるように、皆さんと交流を深めて実りある活動をして参りたいと思います。